



第2号

丹波市 農業委員会だより

丹波市が誕生して2年が経過しました。農業委員会も丹波市の農地や水、そして自然を大切にしながら農業の活性化を目指していきたくと決意も新たにしています。



はばタン、ハッチと一緒にパチリ!!

集落営農による
地域の活性化
花ではばタン。

柏原地域は丹波市の中で最も人口が密集している地域であり農業の現状は、認定農業者の作業委託・集落営農により、耕作放棄・遊休農地は市内では最も少ない区域であります。

柏原地域では、下小倉・北山・南多田の三つの営農組織があり集団転作により麦の作付け、裏作で景観植物コスモス・特産の黒大豆の植付けを行っています。

今年は十月上旬に兵庫国体が開催され各種団体でイベントが催されました。

南多田農業生産組合では、農商・地域住民参加の観光農業が必要と考え、「普及センター・市・観光協会柏原支部・自治会・農会」が協力して、国体マスコットの「はばタン」をコリウス・ペゴニア・マリングールド・芝による花絵に取り組み、うまいもんフェスタ・織田まつり等イベントに京阪神からの観光客誘致に努めています。

- がんばってる人たち…………… 2 p～3 p
- 地域の取組みコーナー…………… 4 p～7 p
- 農地パトロール／新任農業委員の紹介他…………… 7 p
- H17年度地域の世話役活動の実績／農地相談について… 8 p
- 農地の貸し借り／農業委員の担当集落名簿〈とじ込み〉



がんばって 人たち

兵庫県女性農業士に
語っていただきました。

私の求めるもの

柏原町下小倉 吉竹 文代

昭和四十八年秋、酪農専業の夫に嫁いで乳牛との生活が始まりました。朝夕二回の搾乳、餌やりと休みのない大変な仕事でした。けれど酪農仲間や近所の人達、家族の支えがあり感謝しています。

平成十年より「氷上パスマルク生産会」に入り、月一回の定例会、情報交換や良質の生乳生産に努め、京阪神の消費者グループとの交流会や勉強会に出席して直に声を聞くことが私のやり甲斐となっています。

二年前女性農業士の認定を受けました。視察等を通じて酪農以外の人達と接する機会が増え大いに刺激を受けました。

また、丹波市農村女性組織連絡会の会員として昨年は「食の安全、安心」の面から神戸税関で輸入農産物の見学をしました。今年一月には、パワーアップ事業「畑からキッチンへ」を開催し、地元で採れた食材を使った料理を地域の方たちに試食しました。



工夫を凝らした哺乳瓶で飼育される吉竹さん

てもらい、喜んで頂きました。

私の農業の原点は、小学生の頃に見て育った畑一面に咲いた菜の花畑です。やがて菜種油となり食卓をにぎわします。

小麦畑からは小麦粉を作り味噌も醤油も全て自家産、旬の物だけを食べる生活でした。

贅沢ではなかったけれど、安心で皆健康でした。安ければ良いという時代から生産者の顔の見える「安心・安全」へと時代は変わりました。

地域の子供たちにおいしい丹波の食材を教えていきたいと強く決意しています。

新規認定農業者に
語っていただきました。

百姓は毎年一年生

氷上町朝阪 打田 諭志

土とかかわりかけて、四十五年にもなりますが、農産物を栽培するのは難しいものです。

永年の勤めから昨年退職し、認定農業者として、より一層頑張ろうと思っています。

身土不二という言葉がありますが、人間の体と土は一体のものだという意味と、四里四方の農産物を食べるのが健康によいという意味があり、百姓の大切さを感じています。

幸い、安全安心を考えて氷上地域で農業をしている「ひかみ農業研究協議会」の先輩の皆さんの経験豊富なご指導を受けながら、ひょうご安心ブランドの認定を受ける米を中心に現在五畝の農地を経営いたしております。

この丹波の基幹産業はというと、やはり農業ではないでしょうか。

永年先輩の皆さんが農業をしながら一喜一憂し生活の基盤としてこられた農業があまりにも衰退していることに一抹の寂しさを感じています。

愛情込めて育てた子牛を出荷するのは淋しいことですが、予想以上に高く売れたので、これまでの苦労も報われる思いがしました。

また牛舎にも、まだまだ改善しなければならぬところが残っています。牛にとって快適で、人間にとっても作業がしやすい理想の牛舎に近づけるため、指導関係機関のアドバイスを受けながら、周辺環境にも配慮し、健康な子牛を育てることをモットーに今後も引き続き意欲的に取り組んでいきたいと思っています。

家族協定の認定農業者

市島町下竹田 須原 芳夫

我が家は息子二人が就農したのを機に、家族協定を結びました。私は農業に従事する両親、妻、息子二人に、専業者給与を支払っています。そして、土日は休みを確実に取れるよう取り決めをしています。これは、気持ちのリフレッシュが出来、又仕事を頑張ろうという気持ちになると息子達には好評です。若い人が農業はおもしろい、やってみようという気持ちにならないと後継者は育たないし、ついて来ないと思います。もう一つ、農業は儲かるということも重要なポイントだと思います。しんどいばかりで儲けがなければ…。



米・食味鑑定士の須原さん

米価は下がるし、輸入に押され、国内産は値崩れ。それでも肥料代、えさ代、燃料代の請求は容赦なく来ますし、おまけに値上げとくれば、よっぽど考えなければ利益は上がりません。

幸い、今まで私一人でやっていた農作業を子供達が一緒にバリバリやってくれますので、今まであまり取れなかった考える時間を持つゆとりが少し出て来ました。この夏には試験を受けて、米・食味鑑定士の資格を取得することが出来ました。この資格をどう生かすかも含めて、これからの農業経営を皆で話し合いながら考えていきたいと思っています。人の命の源を支える大切な農業という職業に子供達が誇りを持つてくれることを願って。



手塩にかけたりんごの木と打田さん親子



山南地域 安全、安心な丹波地域 ブランドの発信

西垣 昌代

六月に第三十二回兵庫県いずみ大会が丹波の森公苑で開催され約八百四十名が参加されました。

大会では、「大豆のうた」の体操を披露し、「赤いＴシャツは大納言小豆、黒のズボンは丹波黒大豆、そして黄色の手袋は大豆を表しています。」とのＰＲに参加者がうなずいて納得。全員が体を動かすことで、舞台と客席が一体となり盛り上がりました。

「大豆のうた」は『健康ひょうご21県民運動』の一環で、作詞はなんと西宮の小学六年生の児童さん、作曲はキダ・タローさんと、私が振り付けをさせていただきました。

いつでも誰でも、どこでも出来る体操として、子育て学級や、親子クッキング研修会等で「食育」の啓発を行っています。

『地産地消の推進』

地元のブランド小豆、もち米を使って「お鍋で出来る炊きおこわ」を



楽しかった「大豆のうた」体操の様子

作ってみませんか？

○材料(四人分)

- もち米「三カップ」、小豆「三分の一カップ」、ごま塩「少々」
- A 小豆ゆで汁「一・五カップ」
- 塩「小さじ二」

作り方

- 一、もち米は洗って二時間水につけてからザルに上げておく。
- 二、鍋にAを入れて火にかけ、煮立ったらもち米と八分通りやわらかくなった小豆を加えて混ぜ、ふたをする。
- 三、湯気が上がったたら弱火にして十分、次に三秒強火にして火を止め、十五分蒸らしてから混ぜ、ふたの代わりに乾いた布巾をかぶせて出上来がります。

* 出展「台所おばあちゃんの料理秘伝」永島トヨ先生レシピより

ベビーリーフを栽培して 十二年

J A丹波ひかみ三a運動部会会長
山南町草部 大垣 幸三

「減反は続く、米価は上がらない。何か違う作物を。」と思った時、日本で初めてのベビーリーフと出会った。最初は家族に反対されたが、助けられて現在に至る。今では町内でも七人の若者が栽培に汗を流している。

前に、アメリカの農業を見て来たが、ベビーリーフも全量輸入されていた。今日では国内で足りるまになった。先立つて視察に行った西宮では、小松菜主体で五反、家族三人で年間千五百万円近い売り上げと聞きます。

最近は学校給食の食材生産にも取



ベビーリーフの栽培に精を出す大垣さん



市島地域 地域発展につなげよう！

長澤 秀司

新市が発足して二年になります。農業委員も合併以前は八十五名で構成されていました。現在は四十四名になりました。

各委員の担当地域も拡大し、隅々まで目の行き届きにくい事もあるとは思いますが、農業委員は勿論のこと、各農会長とも連携を密にしながら農地を守り、農業が益々発展する様に努力しております。

さて、私は市島町北奥という山間地域で福知山市三和町と接している、中山間地域に指定されている農作業をするにも大変厳しい条件が多く困難を極めているところです。各農家の努力により従来の田畑を荒廃することなく守ってきています。

しかし、農家の高齢化や後継者不足などで今後、遊休地の増大が懸念されるそうです。

この状況を見過ごすことも出来ない、昨年六月に、まず区長を中心として「北奥活性化委員会」を発足し活動を展開しています。

会長、副会長を中心に、委員としては、区長、副区長、組長、農会長、農業委員等で構成し、今後の地域発展に何が必要であり、どうするべきかを委員が一堂に会し充分検討致しました。

区民が安心して暮らして行ける為に今後も努力して行こうと思っている所存です。



氷上地域 楽しかった自然学習交流会

西宮市の小学生が来丹

三崎 鉄一

去る七月三日、西宮市立高須西小学校の五年生児童七十人がバス二台で来丹。

氷上町新郷の山本一氏の農園で自然学習交流会を行いました。児童は、山本さんから提供された赤米の種子を、小学校でバケツ栽培し観察をしています。

山本さん自身も自宅で同じ方法で



ブルーベリーに興味津々の子供達

栽培し、児童の質問を手紙でやりとりしています。

今回、現地での交流学习会が夢の実現となりました。

山本さんは、水稲（コシヒカリ中心で、他に赤米、黒米、紫黒米）・果樹（ブルーベリー二十七畝他）、丹波山の芋、丹波黒大豆の農業経営をされています。

ブルーベリーは植え付けから収穫まで四年間の世話が必要であることや、農園内の雑草防除には、製材所の廃物で木の皮をマルチとしてまき再利用している話等を聞きながら、実際に黒く熟れている実を食べ舌鼓を打っていました。

最後に児童が「いただいたお米で

作ったおにぎりを食べる来て下さい。」とにこやかに約束してくれる姿が印象的でした。

※山本さんの夢

「ブルーベリーの作付けを丹波で五畝位まで増やし、赤米についても販路を開拓し栽培面積を増やしたい。小学生との交流会の目的は、子供たちが大人になった時、丹波産の農産物を食卓で食べてもらいたいからです。」と語られていました。

地域の担い手をめざして

下新庄営農組合長 小澤 正晴

「機械代が高く、多額の投資の割に儲けが少ない。農産物価格の低迷で先行きが不安。後継者がいない。」全国どこでも聞かれる農業者の不安や心配の声ですが、我が集落も高齢化が進み、農地の保全管理が年々難しくなっていく中で、安定した農業経営を営む声が高まり、平成十三年七月、集落八十四戸のうち六十七戸が参加し、「下新庄営農組合」を設立しました。

営農組合では、「機械は個人では買わずに集落で共同利用し、区内の農地は区民が守る。」と目標を定め、集落営農計画の策定や受委託農作業の実施、小麦・小豆等栽培技術の習得、先進地調査等に取り組んできた。



不耕起狭条密植栽培の実証圃

オペレーター部会員が高齢化する中で、機械化作業体系による省力化栽培をめざして、様々な取組みにチャレンジしている。

兵庫県担い手パワーアップ事業の一環として、白大豆の不耕起狭条密植栽培の実証圃を設けて、増収・省力・低コスト化に取り組み、通常栽培に劣らない品質と生産量を確保することが出来た。

また、地産地消を進めるために、農産物加工部では女性の力を借りながら、小麦、白大豆や野菜を使ったうどん、豆腐、コロッケ、クッキー、茄子のからし漬け等を作り、福祉のつどいでのうどん、湯豆腐試食会、夏祭りでのコロッケ試食等、大変好評を得ることが出来た。

平成十九年産から現行の麦や大豆、水稻等の経営安定対策も大きく転換し、水田農業を支える担い手不足が深刻化する中で、若い人達の知恵や力を生かしながら、しっかりと話し合いにより、足腰の強い「営農組合」を作り上げ次世代へ引き継ぎたいと考える。

春日地域

五年後の地域農業構想を
めざして！

中道 司康
細見 肇

今、農業を取り巻く状況は極めて深刻である。この様な環境の中で意欲的に農業に取り組む人がある。春日町多田の井上義巳さんを紹介しします。

彼は一・五畝の耕作地にスイートコーン、小豆、黒大豆、そして今年度より「夢たんば米」五十畝を一人で作付けし、特に夢たんば米には地元ブランドとして、JAの指導のもと春日地域内八十五名の会員の一人として、有機栽培を実施。堆肥も十畝当たり一・五トを投入、又除草剤等の指定も厳しい中、草刈りなど定期的に管理され、十畝当たり三、五石以上の収量を目標としている。



刈り入れ中の井上義巳さん

遊休農地が増加する中、地元では意欲ある人達によって管理する話もあるが、他人から見ると人の農地で利益をあげているといった話も聞くし、管理が難しいところである。

しかし、五年もすれば耕作ができず、管理を依頼して来るケースが多くなると思われる。

多田地区では豊かな田園を残す里山づくりの県の指定を受けています。これを機に地区では将来の農業構想について集会を持ち、五年先の地域全体の農地管理をどうするのかについて、幅広く意見を交換した。次世代の若者には週末又は農繁期に親の手伝いを可能な限り行う事で農業意識と理解を深め、「地域の農地は

青垣地域

集落営農を立ち上げる

芦田 浅己

東芦田では二十数年来、転作対応で小豆のブロックローテーションによる栽培に取り組んできました。この部落でも共通していることです。が、高齢化率は三十%に達し農業の後継者が激減し、農地の維持管理が困難になってきました。利用権設定の農地も水田の三分の一に達しています。そのような現状をふまえて、今後の農地の維持管理の見通しを模索している最中に、今回の政府による「担い手」にしか助成金を交付しないという「経営安定化等対策」です。補助金をそれなりに頼りにもして細々と営んできた農家にとっては、乗らざるを得ないような事態ともなりました。

そこで、転作対応だけではなく、集落内の農地と村の機能の維持管理を目的として、今春約五十人の参加を得て東芦田営農組合を立ち上げることとなりました。今年の作付けは水稻三畝、小麦十二畝、小豆六畝、黒豆〇・四畝でスタートしました。政府の政策ではクリアすべきハードルが高すぎて簡単ではありませんが、役員一同一丸となって取り組んでいます。

農業委員の交代がありました。



藤原 健 農業委員

JA丹波ひかみ農協理事の変更に伴い、農協選任委員の変更がありました。

農地保全と農業振興のためにお世話になりました関連次委員が退任され、七月一日付で新たに山南町大河の藤原健委員が就任されました。よろしく願います。



農地パトロール中の農業委員

自分達で管理する」という意欲を育てる。

近い将来、営農組織の設立も視野に入れ、互いに協力しあい個人負担を軽減し、魅力のある農業を目指す。ブランド商品として高くても消費者が待ち望むにはどうするか。販路の拡大も含め熱弁は尽きない。

みんなで考えよう！
地域の農業！

細見 貞夫

三月に春日町上三井庄、下三井庄、鹿場の三集落の農家と、市、JA丹波ひかみ農協、柏原農業改良普及センターが集まり、集落営農の利点や



熱心に討議された集落間交流会の様子

将来性について話し合いました。

同センターからは、集落営農組織は、農業の低コスト化、労力の補完農地を守っていけるなどの利点があるほか、地域のコミュニケーションが盛んになり、地域文化を次世代に継承していけるという側面もあるとの説明がありました。

農業後継者が減少している現在、どのようにして農地を守り、生産活動を活性化すればいいのか、住みよい「むら」はどのようにすればいいのか等を考えるための情報交換会になりました。

私の方からは、遊休農地パトローलをした際に隣接地の方々から出されたいろんな苦情や、その結果を報告しました。

田畑が保全されていなければ、虫が大量に発生し家の中に入ってくる。もぐらが発生して管理している田畑を荒らして困っている。雑草の種が飛んで来て迷惑である等です。

この結果を遊休農地所有者や農会長にお願いし、改善点を指摘し遊休農地を復活させる必要性を依頼した結果、所有者が農地を改善されたり、シルバー人材センターに依頼して草刈りをされる等の改善にご理解をいただきました。

自分の農地は自分で守りましょう！

農業者年金に加入しましょう！

農業従事者なら広く加入できます

●六十歳未満の国民年金第一号被保険者で、年間六十日以上農業に従事する方であれば加入できます。●農地を持たない農業者や家族従事者も加入できます。●積み立て方式で安定した財政で運営されます

●将来受給する年金は自らが積み立てる方式となり、少子高齢化の進展にも対応でき、長期に安定した制度です。

保険料の国庫助成があります

●認定農業者等一定の要件を備えた意欲ある担い手に対し、保険料（月額二万円）の二割五割の政策支援があります。

保険料を自由に選択でき、税制面でもメリットがあります

●政策支援を受けない場合、保険料を月額最低二万円から最高六万七千円まで千円単位で加入者自身が選択できます。

●保険料は全額社会保険料控除の対象となり、年金給付についても公的年金等控除の対象となります。

八十歳までの保証がついています

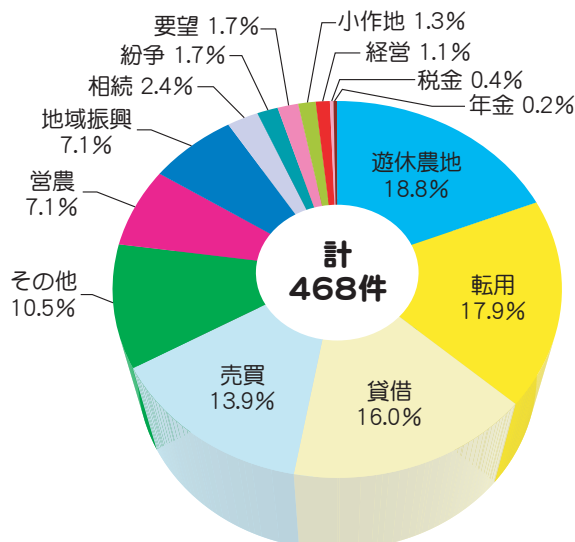
●加入者や受給者が八十歳になる前に亡くなられた場合は、八十歳までに受け取ると仮定した金額を死亡一時金として遺族が受け取れます。

罰則

市長の措置命令に従わない場合は三十万円以下の罰則。利用計画の届出をせず、または虚偽の届出をした場合は十万円以下の過料。

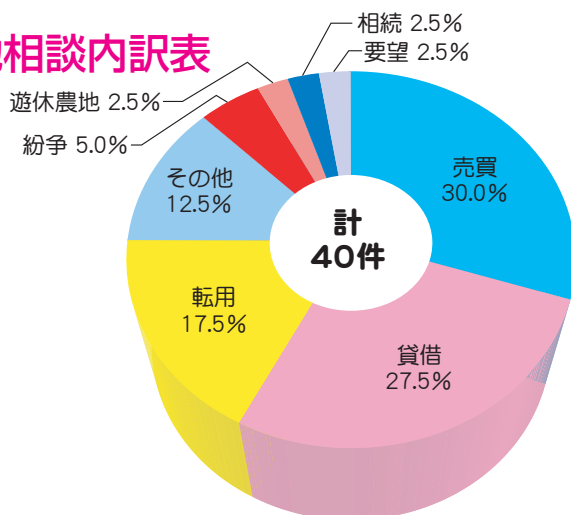
平成17年度農業委員による地域の世役活動にかかる活動記録の実績

項 目	件 数
遊 休 農 地	8 8
転 用	8 4
貸 借	7 5
売 買	6 5
そ の 他	4 9
営 農	3 3
地 域 振 興	3 3
相 続	1 1
紛 争	8
要 望	8
小 作 地	6
経 営	5
税 金	2
年 金	1
合 計	4 6 8



平成17年度農地相談内訳表

項 目	件 数
売 買	1 2
貸 借	1 1
転 用	7
そ の 他	5
紛 争	2
遊 休 農 地	1
相 続	1
要 望	1
合 計	4 0



相談の内容は？

Q-1 後継者が居ないので農地の管理が不安です。

Q-2 農地を借りて経営を規模拡大したいのですが。

A Q-1、Q-2の貸手、借手のあっせんを農業委員も行っていきます。

利用権設定等促進事業で貸し借りをすれば安心です。

Q 遊休農地の草刈りを誰かに頼めるか？

A シルバー人材センターやJA丹波ひかみ農協に依頼することもできますが、草刈・耕起の後、利用権で耕作者（借手）について農業委員に相談して下さい。

Q 湿田解消のため農地に土を入れてかさ上げしたいが？

A 農業委員会に形状変更届けが必要です。

Q 私有地の農地を住宅や駐車場に転用したい。

A 農業委員会に農地法第4条の転用申請が必要です。

くわしくは農業委員会へ

農地相談日のお知らせ

農業委員会では、農地の貸し借り・売買・転用・有効利用などについての相談を受付けますので、お気軽にご利用ください。

【これからの農地相談日】

地 域	H19/1月	会 場
柏原地域	16(火)	生涯学習の森
氷上地域	16(火)	市役所本庁
青垣地域	16(火)	青垣住民センター
春日地域	15(月)	春日庁舎
市島地域	15(月)	住民センター
山南地域	15(月)	山南支所

相談時間：青垣地域は午後3:00から4:30まで、その他の地域は午後2:00から3:30まで。

会 場：相談会場は当日、案内板等でご確認下さい。

営農と生活に役立つ情報がいっぱい!! 「全国農業新聞」を購読されませんか？

農政・経済の動向、全国の優良営農事例等が多く掲載され、農業関係者の喜びや悩みを共感できる読みやすい新聞です。
お申込は農業委員会 ☎74-1504 までお問い合わせください。

編集後記
米価・野菜価格の低迷、天候や鳥獣の害、めまぐるしく変わる農政、農家にとって生産意欲を持続できる特効薬とは何なのか。本当に悩ましい。あぜ道談義をしていても、明るい展望が見えてこない。この農業委員会だよりがせめて健康で楽しく農業が営めるための一助になれば。 (編集委員)